本編⑯「第一大『犍度』」その５「第二の転法輪『無我経』」2020.10.17

〇四諦八聖道を三転十二行相で解き明かした後、悟りの宣言

「比丘たちよ、四聖諦を『三転 ti-parivaṭṭam 十二行相 dvādasa-ākāram で』如実智見し yathā-bhūtam ñāṇa-dassanam、とても清浄になった suvisuddham ahosi ので、無上正等覚を現等覚した abhisambuddho と、私は知らしめたのだ paccaññāsim。
私に智と見が生じたñāṇañ ca pana **me** dassanaṃ udapādi。
私の心の解脱は不動である akuppā **me** cetovimutti。これが最後の生まれ。
今や再有（転生）はない Ayaṃ antimā jāti. N' atthi dāni punabbhavo と」。

世尊がこの授記をなさったとき imasmiñ ca pana veyyākaraṇasmiṃ bhaññamāne、具寿コンダンニャに遠**塵**離垢の法眼が生じた『何であれ**生じる**（集）ものそのすべては滅するものである』と vi**raja**ṃ vītamalaṃ dhammacakkhuṃ udapādi "yaṃ kiñci **samudaya-** dhammaṃ sabbaṃ taṃ nirodhadhammam"」。**→註釈：預流果**

世尊が法輪を転じて pavattite … dhammacakke おられたとき、地居天が、「沙門、バラモン、天、魔、梵天の誰であっても逆回転させることができない最上の法輪が転ぜられた anuttaraṃ dhammacakkaṃ pavattitaṃ appaṭivattiyaṃ」と声を上げた。……梵天が……。

［コンダンニャ長老について］世尊はこのウダーナを唱えた。「コンダンニャが了知した Aññāsi vata bho Koṇḍañño。コンダンニャが了知した」。
→ aññātaKoṇḍañño

〇五群比丘が次々悟る

具寿コンダンニャが出家を願い出る。
「世尊のみもとで具足戒 upasampadā を得たいです」「来たれ比丘よ ehi bhikkhu。法は善く説かれた svākkhāto dhammo。正しく苦の滅のために梵行をおこなえ cara brahmacariyaṃ sammā dukkhassa antakiriyāya」。

説法・教導を続けるうちに、具寿 Vappa と具寿 Bhaddiya に法眼が生じた（預流果）。「来たれ比丘よ」。→Ehibhikkhu-upasampadā（「来たれ比丘」比丘出家。ヴァッパ長老が初日 pāṭipada-divase、バッディヤ長老が次の日 dutiya-divase。）
釈尊が（悟っていない二人の）比丘たちを教導し、三人の（悟った）比丘た

ちが托鉢に行き、施物を食し、それで六人が共住していた。→数日経った。
　さて、具寿 Mahānāma と具寿 Assaji に法眼が生じた。「来たれ比丘よ」。
　→マハーナーマ長老が第三日、アッサジ長老が第四日。五日めに『無我経』を。

○『無我経』（「相応部」に『無我相経』あり）の説法

　①色は無我 rūpam anattā です。もし色が我ならば、色が病に罹ることはなかろう。「私の色はこのようであれ evam me rūpam hotu。そのようになるな」などということができよう。しかし、色は無我なので、色が病に罹ることあり。「この色を用いよう。その色を用いまい」ということができない。
　②受は無我。③想は無我。④行は無我。⑤識は無我。……

　「比丘たちよ、どう思いますか？
　①色は常住 nicca ですか無常 anicca ですか？　→無常です。
　　無常なものは苦ですか楽ですか？　→苦です。
　　何であれ無常で苦で壊れる性質のもの vipariṇāma-dhamma、それを
　『これは私のもの etam mama。これは私 eso ‘ham asmi。これは私の我 eso me attā』
　と見ること samanupassitum は適切 kalla[kalya]ですか？　→いいえ。
　②受　③想　④行　⑤識……

　「それゆえここで tasmāt iha、比丘たちよ、どのような色も yaṃ kiñci rūpaṃ、過去未来現在 atītānāgatapaccuppannaṃのものも、内・外、粗・細、劣・妙、遠・近のものも、あらゆる色を、
　『これは私のもの**ではない n’** etam mama。これは私**ではない n’** eso ‘ham asmi。
　これは私の我**ではない n’** eso me attā』
　と正慧によって如実に見るべき daṭṭhabbaṃです。
　受、想、行、識を……

　このように見る聖なる弟子は、色、受、想、行、識において厭います nibbindati。厭うので離貪します virajjati。離貪するので解脱します vimuccati。**解脱したとき、「私は解脱した」という智慧が生じます vimuttasmiṃ vimutt’ amhīti ñāṇaṃ hoti。**
→（解脱智見）
生まれは尽きた。梵行を修めた。為すべきことを為し終えた。後生を受けることはないと分かります。」
　五群比丘はこの教えを喜び、信受し、執着を無くして anupādāya 諸漏から心が解脱した āsavehi cittāṇi vimucciṃsu。このとき、世に阿羅漢が六人になった。